

(p.p.50)

新しい単語は様々な方法である言語に組み込まれるかもしれない。多くの新しい単語はある言語の語彙または辞書に派生した過程を経て加えられる。

複合語

新しい単語は別の単語をつなぎ合わせて複合語とすることで形成される。以下の複合語のリストの例に見られるように、英語に見られる組合せの種類にはほぼ限りがない。

ADJECTIVE-ADJECTIVE *bittersweet*

ADJECTIVE-NOUN *poorhouse*

ADJECTIVE-VERB *highborn*

NOUN-ADJECTIVE *headstrong*

NOUN-NOUN *rainbow*

NOUN-VERB *spoonfeed*

VERB-ADJECTIVE *carryall*

VERB-NOUN *pickpocket*

VERB-VERB *sleepwalk*

もしその（複合語を作る）2つの単語が同じ文法の区分にあるなら、その複合語も同じ区分となるだろう。noun+noun（名詞+名詞）は *girlfriend, fighter bomber, paper clip, elevator-operator, landlord, mailman* のように、adjective+adjective（形容詞+形容詞）は *icy-cold, red-hot, worldly-wise* などのように。

(p.p.51)

多くの場合、複合語を作る 2つの単語が異なった文法の区分にあるなら、その複合語の部門は2番目か最後の単語の文法的な区分となるだろう。

noun+adjective（名詞+形容詞）なら *headstrong, watertight, lifelong*（すべて品詞は形容詞）のように、verb+noun（動詞+名詞）なら *pickpocket, pinchpenny, daredevil, sawbones* のように。これはいつも当てはまるわけではない。前置詞とともに形成された複合語は複合語の前置詞でない区分に属するからである。*overtake, hangeron, undertake, backdown, afterbirth, downfall, uplift* のように。

2語の複合語は英語でもっともありふれたものであるが、その上限（注：組み合わせる語数の上限）を陳述するのは困難だろう。*three time loser, four-dimensional space time, sergeant-at-arms, mother-of pearl, man about town, master of ceremonies, daughter-in-law* のように。

綴りから何の単語の連続が複合語を作るのかが分かるわけではない、というのもその2語の間にスペースを入れることで形成されている複合語もあれば、-を入れることで掲載

されているもの、分離することなく形成されている複合語もあるからである。blackbird, gold-tail, smoke screen などがその例である。

複合語が元の複合されていない単語の連なりとは異なった強勢のパターンを持つことは往々にしてあることである。したがって Red-coat, greenhouse, lighthouse keeper は第一強勢を複合語の初めの部分持つのに対し、red coat, green house, light housekeeper はそうではない。(後の部分に第一強勢を持つ) この例外もある。Fifth Street (はじめに第一強勢) と Fifth Avenue (後ろに第一強勢)、mailman (2つの a に第一強勢) と postman (はじめに第一強勢) のように。six -cornered hen house annex door のような複雑な複合語の中にも我々は複合語の強勢パターンを見出すのである。

他の似たような作られた複合語は、並列している単語の根底には異なる文法的関係が表現されていることを示している。houseboat は家であるボートであるが、housecat は家である猫ではない。

(p.p.52)

boathouse はボートのための家(ボート小屋)であるが cathouse は猫のための家ではない。偶然にも cathouse に住む猫はいるけれども。jumping bean は跳ねる豆ではあり、falling star は落ちて来る星であり、magnifying glass は拡大するガラスであるが、looking glass は見るガラスではないし、eating apple は食べるリンゴではなし、laughing gas は笑うガスではない。

アクロニム(頭文字)はいくつかの単語の初めのアルファベットをから作られた言葉である。そのような単語は綴りが指すように発音される。NASA, UNESCO, CARE のように。Radar は **radio detecting and ranging** から、laser は **light amplification by stimulated emission of radiation** から、そして scuba は **self-contained underwater breathing apparatus** からであり、造語者の創造的努力—snafu (大わらわ) が **situation normal, all found up** のような洗練された循環を持つ—ことを示している。

混成語は複合語“以下”の複合語である。(複合語よりも省略されている複合語である) Smog は smoke と fog から、motel は motor と hotel から、urinalysis は urine と analysis からなっており、これらは英語において完全に語彙としての地位を得ている混成語の例である Broasted が broiled と roasted からきていることは、Lewis Carroll が chortle を chuckle と snort から作ったものと同様に英語において限られた了解しか得ていない。Carroll は造語と混成語の両方で有名である。

新しい単語は既に存在している単語を古い単語の一部と考えられている接辞を減じることによって形成されるかもしれない。それゆえ peddle は、er は動作主を示す接辞だという誤った仮定の下ではあるが、peddler に由来する。そのような単語は逆造と呼ばれる。動詞の hawk, stoke, swindle、そして edit はすべて、hawker, stoker, swindler, editor という言語の逆造からきている。Pea は単数語の pease に由来する。(pease を複数形と考える話

者もいるが) 言語純粹主義者は